

2015（平成 27）年度 経済学研究科自己点検・評価報告書

経済学研究科は、本学の建学 3 指針をもとに、複雑な経済・経営の諸問題の先端的理論および実証研究を推進して、社会の平和と繁栄に貢献できる人材の育成を目指してきた。その実現のために、これまで様々な改革に取り組んできた。

特に、2014（平成 26）年度に、大学基準協会による大学評価（認証評価）をうけ、「適合している」と認定された。しかしながらその際に、本研究科に対する努力目標のご指摘もいただいた。それをもとに、よりいっそうの改革を推進するべく、研究科内に「検討委員会」を設置し検討を続けてきた。さらに、同年、文部科学省より「グローバル大学創世支援」に採択され、本研究科においてもいっそうのグローバル化を目指して、新設の専修コースの検討も行ってきた。昨年度に引き続き取り組んできた改革の今年度の成果について点検・評価を記すことにする。

【1】経済学研究科の現況

2015（平成 27）年度の院生数は、以下の通りである。

博士前期課程 1 年 3 名、2 年 5 名 合計 8 名

博士後期課程 1 年 1 名、2 年 2 名、3 年 7 名 合計 10 名

教員数 22 名

【2】「スーパーグローバル大学創成」の実践

「スーパーグローバル大学創成支援」に採択されたことにもなあって、本研究科も様々な変革に取り組むことになった。

経済学研究科では、「研究科検討委員会」を組織し、月 1 回の会議を設け議論を続けてきた。

昨年度に掲げた、「秋入学」の推進を実現すべく種々検討を加え、英語だけの講義により課程が修了できる、いわゆる「English Track」を策定した。これが 2016（平成 28）年度秋より開講する「国際ビジネス専修」（International Business Studies Program=IBSP）である。具体的なカリキュラムと担当者を決定した。留学生に向けての広報活動については、ホームページでの告知や独自のパンフレット等の作成も行った。その結果、本年度 2016 年 2 月に実施された入学試験に対して、6 名の受験申し込みがあり、順調な滑り出しとなった。

「スーパーグローバル大学創成支援」採択校としての責務を果たすべく、経済学研究科もその一翼を担う改革を進めている。

【3】コースワークの設定

昨年度実施したカリキュラムのマイナーチェンジをふまえ、大学基準協会からの指摘に対する改善策として、コースワークの実施についての検討を行ってきた。本年度は、次のような改革を策定し、次年度より実施することとした。1, 前期後期とも、年度の冒頭に「研究指導計画書」を作成し、研究科長に提出する。2, 学位取得のための修士論文・リサーチペーパーについては、経済学専修は2年次春学期に、経営学専修は1年次秋学期に担当教員を決定する。それまでは、研究科委員会で定められたリサーチアドバイザーに指導を受ける。3, 後期課程進学希望者に対しては、「博士後期課程進学試験」の合格を義務づける。4, 博士後期課程の院生は、指導教授のほかに副指導教授の研究指導が受けられるものとする。5, 博士後期課程の院生は、「研究基礎科目」を2単位以上習得することが、博士論文提出のための条件であると定める。

これらの改革によって、コースワークが実現できることとなった。

【4】今後の課題

新たな専修（コース）が設置されたことによる、担当教員の負担が激増した。それを緩和するための手立ては不可欠であり、今後の課題といえる。また、留学生の増加に伴う諸問題についても検討が必要であろう。大学基準協会による指摘のなかでも、恒常的なものとして「定員充足率の改善」があげられているが、これについても来年度はその解消に向けて、よりいっそうの努力を続けていく必要がある。

以上、本年度の取り組みとその成果を簡単にまとめた。山積した課題はまだまだ多いといわざるを得ないが、本年度に解決をみたものもある。たゆまぬ努力の継続が、これらの諸問題を乗り越えるための不可欠な作業といえよう。研究科の教員が一致団結して、よりよい大学院教育を目指し歩みを進めていきたい。